

令和7年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

令和7年4月14日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
めまぐるしく変化し複雑で予測困難な社会の中で、時代が求める「学び」への取り組みを進め変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。豊かでたくましい人間性を育み、キャリア教育を充実させる。 ◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進 ◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む ◎情報や情報技術、ＩＣＴ機器について深く理解し、自らの学びに取り入れる。また情報技術、ＩＣＴ機器を活用した校務のＤＸ化(デジタル・トランスフォーメーション)を推進する。 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む		・スクールミッション、スクールポリシーにより、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。 ・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。 ・ICTの利活用を基盤とし、一人一台端末の効果的な活用をさらに進めるために、各教科が連携して取り組みを推進する。加えて、教科の枠を超えた教材の研究や研修を深化させ、ICT教育のみならず、教育現場全体のDX化(デジタル・トランスフォーメーション)を図り、生徒一人一人の学びの質を向上させる環境を構築する。 ・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。 ・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。 ・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。 ・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。 ・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践のため、地元地域の力を生かし、今年度のインターンシップ教育を進める。	◎時代が求める「学び」への取り組み ・主体的学びへの高いモチベーションの構築 ・対話的学びへ向けたコミュニケーション能力の向上 ・「深い学び」及び「個別最適な学び」に向け、ハイスペックPC等ICT機器を整備・活用した教育活動を充実させ、教育のDX化(デジタル・トランスフォーメーション)を推進する。 ・学力に応じた手立てと指導の工夫 ・規律ある学び風土の醸成 ◎豊かでたくましい人間性の育み ・自己有用感やコミュニケーション力を向上し、他者を思いやり良好で発展的な人間関係を構築する力を身につける ・行事等を通して非認知能力を育み、人格形成を図る ・学校生活全般における生徒の主体的参加の推進 ・部活動の積極的参加と体験活動の充実 ・地域、保護者とともに、次代の社会を築き、守り、担う人材(生徒)を育てる ◎キャリア教育の充実 ・基礎的・汎用的能力の育成を踏まえたキャリア教育の計画・実践 ・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践 ・地元地域の力を活かしたキャリア教育の推進 ・インターンシップ教育の実施			
評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策			成 果 と 課 題	
			中間	最終総合		
教育課程 学習指導 (教務部)	単位不認定者を出さない学習指導を行う	毎日の授業の積み重ねや、課題に取り組んだことによる成果物の提出が考査の結果、成績に表れる。このような「やればできる」ことを生徒が実感できる学習指導を行う。課題のある生徒に対しては、個に応じた丁寧な指導を行う。教科担当者、担任をはじめ学校全体で支援を行っていく。				
	将来像を描けるような学習指導を行う	生徒自身が「将来の自分のためになる、そのために勉強が必要である」と実感できる学習指導を行う。学習内容の定着を図るにあたり、「主体的で対話的な深い学び」を実現できるよう、授業形態や授業の進め方を工夫する。				
	生徒が興味を持つ授業づくりのための工夫を行い授業力向上を目指す	公開授業週間や研究授業を積極的に活用し、若手、ベテランを問わず意欲的に研鑽できる機会をもうけ、授業改善や授業力向上を図る。一人一台端末の効果的な活用の手法を学び、生徒一人一人の学びの質を向上させる授業づくりをめざす。				
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を全教職員と協力して、育成する。	自分自身を第三者目線で見ることや自身の行いを振り返り、落ち着いて学習に向かえる環境を作り、自律できる力を育むことで、生徒指導件数減少につなげる。				
		指導生徒の理解に努め、「課題予防的生徒指導」を有し、個々に合った生徒指導を実践する。また、全ての生徒が認められている・満たされているとの思い(自己有用感)を獲得できる取組を行う。				
	褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高める取組を進める。	各行事への取組を通して、クラス・委員会の自治力を高め、自分たちで行事を創り上げる力を育成する。行事後、「やりきった」と達成感を得られる生徒の割合を増やす。				
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	いじめ許さない態度・能力を育成するために、人権学習を充実させ、日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。				
	3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。進路未定者には早期にアプローチしていく。				
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、実施する。自学自習を基礎とした効果的な補習の在り方を工夫し、学力伸長を図る。昨年度より始めた「プレゼン・トライアル」を継続して実施し明確な目標や目的意識を持って学習に取り組ませる。1年次の小論文指導(模試)、2年次の志望理由書指導(模試)を土台に、総合型選抜、学校推薦型選抜を意識した全教職員による個別指導につなげていく。				
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。「自己投資会(自学自習集団)」においても面談などを通して、生徒の歩みを援助する。				

進路指導 (進路指導部)		入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。				
	学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	2年生の秋から就職指導を開始し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部や外部機関と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。				
		社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力の向上を図る指導を行う。必要な「我慢」ができる、粘り強さも育ていく。				
		面接対策を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、言葉遣いなどについて粘り強く指導する。また、社会人を面接官として招聘し、実践的な模擬面接を設定する。内定後も社会人になるという自覚を持たせるよう指導を継続する。				
	進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	生徒の進路希望を早期に把握し、高校3年間を見通した進路実現への道筋を考えさせる。本年度より始めるBenesse「進路達成プログラム」を活用しながら段階を踏んで指導していく。また「自己投資会」の取り組みを継続し、生徒が計画的・自発的に学習するためのきっかけづくりや環境整備を行う。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にする取り組みや進学補習・夏期進学セミナーなどを充実したものにさせる。書く力を育てるため、日頃より文章を書く癖をつけさせ「ステップ小論文」「志望理由書マスターノート」等を活用する取り組みを進める。				
		進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより適切な情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め具体的な見通しを持たせる。2年生の3学期までに生徒が自らの志望を宣言できるように導いていく。				
	ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	生徒の学習習慣を形成し、自ら伸びていく力を育むために、WEBテスト、動画の配信、学習時間の記録などの教材やしくみを効果的に使っていく。				
学校保健 学校安全教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、他教職員と協力して支援の充実を図る。 生徒の健康についての意識を高める。 環境問題・環境美化に対する生徒・教職員の意識の向上を図り、安全で快適な学校環境の整備に取り組む。	様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、指導・支援の方法を担当・教科担当者と共有し、支援体制を整える。				
		薬物乱用防止教室や性教育講演会を実施し、適切な行動選択や意思決定が可能な生徒の育成を図る。また、健康診断等の事後指導に力を入れ、自身の健康についての生徒の意識を高めるよう試みる。				
		公共の場である学校で、掃除担当者だけでなく一人一人が分別・清掃の意識を持って環境美化に日々取り組むように指導する。昨年度に引き続きゴミステーションでのゴミの分別指導、美化週間でのゴミ分別・削減の取り組みを行う。				
特色推進 広報活動 ICT教育 読書指導 (総務企画部)		学校ホームページや公式SNSを随時更新して、本校の教育活動や生徒の様子等についての発信を継続する。また、今年度から新たに始まる取組を積極的に発信する。				
		学校公開では、中学生にとって”この学校に通いたい”と思ってもらえるようなインパクトのあるものにするために、工夫を凝らす。				
		学校の内外に向けて丁寧な情報提供を行い、保護者や地域、中学校から信頼される学校を目指す。				
	・生徒が端末を適切に管理・活用する力を養うためのサポートを行う。 ・端末の管理・整備を行うとともに、教職員へのICT教育への関心・意欲やICTのスキルを高めるための研修を行う。	学習用端末やアプリ、各アカウントの管理やトラブルの対応を行い、生徒と教員が円滑に授業でICT活用できるようにサポートする。また、利用規程や使用方法を周知し、情報モラルの向上を図る。				
		学校全体でICT活用が進むよう研修会等を通じて、操作方法や活用方法・活用事例の共有を行う。				
	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。	図書館だよりや図書委員会だよりを定期的に発行し、生徒おすすめ図書などの情報を提示する。また、図書委員会の活動を通じて、本の魅力を発信する。				
		教科での図書資料活用の推進や一斉読書週間の実施を通して、本に触れる機会を確保する。				

教育環境整備 (事務部)	・安心・安全な施設設備の維持管理を図る。	定期的に施設設備の点検を実施し、危険箇所等の早期発見、早期対応に努めるとともに、安全に施設設備を使用できるよう維持管理に努める。また、継続校として採択されたDXハイスクール予算の執行及び、新築倉庫等新たに加わった施設設備について継続して適正な環境が維持できるよう運用に関するルールを調整し、策定する。				
	・特色ある教育活動や広報活動等の実施のため、学校予算を効率的に執行する。	各分掌・教科との連携をとりながら効率的な予算執行に努める。				
	・修学支援	援護制度について周知を図り、生徒の修学や希望進路の実現を支援する。				
第1学年部	社会で大切にされる人になるための基盤の育成	・学習習慣確立のために日々の授業に一生懸命取り組みせ、授業規律も守らせる。その中で、教科担当と日頃から密に連絡を取り、生徒の情報把握に務め、様々な事柄に対して早期の対応ができるようにする。 ・週一回の放課後を利用し、学習できる空間、教え合いや教科の質問などが自主的に参加できる場の提供を行う。また、授業に遅れている生徒など放課後に来させ、サポートする体制を構築する。				
		・職業体験等様々な活動を常に意識させる中で、日々の挨拶を積極的に行うこと、時間、〆切を守ることの大切さを伝えるなど当たり前のことを当たり前にできるようにする。また、何事にも素直さ、正直さ、誠実さを持って取り組ませる。 ・学年全体で生徒を見守るため、担任だけでなく、定期的にSHRでの担当を入れ替え、様々な教員が多くの生徒と関わる機会を作る。				
		・クラス内での活動、様々な行事を通して多くの人や様々な考え方に触れることでコミュニケーション能力を高められるようにする。 ・各行事で他者と協力することで得られる達成感や充実感を味わわせるのために本気で取り組むことの大切さを学年一体となり指導する。				
第2学年部	社会の一員として、社会に通用する規則的で正しい生活習慣の確立	学校生活のルールが定着するように、積極的に声掛けをする。また、生徒同士でも行事などを通じて社会性が身につくように導いていく。また、ルールの守れていない生徒に対して個別に対応だけでなく、集団として改善されるように方向付けをする。				
	自学自習を最終目標とする学習習慣の確立	日々の授業を大切にすることを伝えることで、基礎学力を身につけさせる。あわせて、自宅学習が必要となるような課題を教科と連携して提供することで、家庭学習の習慣をつけさせる。				
	常に目配り、気配り、心配りを行い、仲間とともに協力・成長する力の育成	様々な生徒が同じ環境にいることを理解させ、お互いを認め合いながら常に自分事として考える機会を設け、他者を思いやることができるようにする。				
第3学年部	学校生活を充実させ、希望進路を実現するとともに、卒業後の自分のあり方を見通しながら行動できるよう促す。	・時間や〆切を守って行動できるように促し、欠席・遅刻過多による原級留置を減らす。学年による遅刻指導、行事の補充を継続して行う。 ・プライベート、オフィシャル、フォーマルの違いを意識させながら、TPOに応じた身だしなみが自発的にできるように指導する。 ・スマホや学習端末の使用ルールを理解し、守れるように促す。SNSとのつき合い方についても考えさせる機会を作りながら、正しく使用できるよう促す。 ・以上のことについて、他分掌と連携しながら、また保護者の理解を得ながら日々の指導に当たる。				
		・授業に主体的に参加し、学習習慣を身につけるよう促す。過程を大切に、まずは自分の力でやってみて、粘り強く最後までやりきるよう促す。つまづきを抱える生徒に対しては個別指導も含めて丁寧に指導に当たる。 ・ことばの力の育成に努め、思考や感性を育む。HRなどを通じて様々な文章を読ませ、多様な考え方を知る機会をつくる。行事等を通して積極的にコミュニケーションを図るよう促す。希望進路の実現に向けて志望理由書や自己推薦書などに計画的かつ丁寧に取り組ませる。 ・進路指導部と連携しながら情報提供を適宜行い、希望進路の実現を図る。				
		・互いが気持ちよく過ごせるよう、挨拶、場面に応じた言葉遣い、清掃活動やゴミの分別ができるように促す。自分の進路が決まってからも、周囲への配慮ができるよう、また卒業後の自分自身のあり方を見通して行動できるよう促す。 ・人権について様々な機会に考えさせ、正しい理解をするとともに自分の言動につなげることができるよう指導する。 ・行事や部活動、生徒会活動などに最高学年として取り組めるよう、また自分とは合わないと感じられる相手とも協同してものごとに取り組むことができるよう指導する。とりわけ文化祭において、質の高い演劇発表ができるよう取り組ませる。 ・各分掌や各部活動顧問、保護者と連携しながら、生徒の実態把握に努め、細やかな指導に生かす。特別な支援の必要な生徒についての情報共有を図る。				
評価の基準 A: 十分達成できている、(目標以上の成果が得られている。) B: ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C: 達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D: ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)						
学校関係者 評価委員会 による評価						
次年度に向けた改善の 方向性						